

表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38117

大正四年三月一日發行

十全會雜誌

卷十二第
號三第
(號十百第)

全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌(第二十卷第三號)目次

○原著及實驗

●「サルブルサン」及「ネオサルブルサン」
注射後ノ皮膚疹ニ就テ。

臺北醫院皮膚科 池 上 豐

●閃輝性融解症ノ一例。

Ein Fall von Synchisis strobilans.

ドクトル 辻本辰之助

○通信

●廣山壽男氏通信。●坪田義門氏通信。●北川文松氏通信。●馬諾定衛氏通信。●吉田圓磨氏通信。●中野憲吉氏通信。●鹽村和喜男氏通信。●清水亮氏通信。●堀田愼之氏通信。●原田四郎氏通信。●萩原忠氏通信。●木村豐三郎氏通信。●大村作太郎氏通信。●大村作太郎氏通信(其二)。●和田源五郎氏通信。●村山眞平氏通信。

○雜報

●村山眞平氏表彰會之記。●射初式。●圖書月報。(其十二)

○人事

●塚本政次郎氏。●馬諾定衛氏。●轉居。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。●創立二十五年紀念館寄附金第七回報告。

○廣告

●村上教授在職紀念品贈呈釀金廣告。



現症、視力、 $F.A.V = \frac{120}{20} + 1.75D$ (60) $L.A.V = \frac{80}{20} + 1.5D$
 20. 外眼部ニ何等變化ナク水晶体ハ兩眼共斜照法ニヨリ僅カニ濁濁ス
 30. ルノ感アリ、左眼ハ眼底検査上普通ノ健眼ノ如ク透明ナラザルモ克ク透
 見スルヲ得テ變化ヲ認メズ、

右眼ハ眼底周圍面ハ比較的明瞭ナルモ乳頭面ハ朦朧トシ僅カニ赤紅色ノ
 類圓形反射ニヨリ其位置ヲ確メ得ルノミニシテ此所ヨリスル血管分岐ノ
 狀況ノ如キハ詳細ニ識別スルヲ得ズ而シテ眼底面ヨリ一種ノ銀白色ノ反
 射「レンス」面ニ現ハレ「キラ」トシテ眼底検査ヲ妨害スル事著シ、今
 若シ凹面鏡ヲ以テ直像検査ニ於ケル如ク眼前約十仙知ニ近ケバ眼内ニ無
 數ノ光輝アル小点ヲ見ル其狀恰モ夏ノ夜ニ燦爛タル星ヲ見ル如ク試ニ眼
 ヲ動カサシムレバ其星狀光輝物ハ浮動シテ星ノ流ル、如ク銀河ノ散ルカ
 如ク又所謂金雨ノ降ルガ如キ觀ヲ呈シ其美觀ハ検査者ヲシテ倦カシメザラ
 シム今平面鏡ヲ取り直像検査ヲ行ハンカ燦然タリシ光輝物ヲ認ムル能ハ
 ズシテ吾人毎常相遇スル硝子体濁濁ヲ窺フ如ク黒褐色ノ無數ノ小点及紫
 狀濁濁ノ浮動スルヲ見ルノミ然レモ平面鏡ト「レンス」ヲ以テ微照法ヲ試
 メバ再ビ其濁濁物ハ凹面鏡ヲ以テスルヨリハ擴大スルヲ以テ只ダ「キラキ
 ラ」トシタル形態不明ナル反射ヲ呈スルヲ見ル而シテ直像検査上血管其他
 ニ異常ヲ認メズ檢尿上糖及蛋白ヲ見ズ「アツセルマン」氏反應試驗ハ未ダ
 シ。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

通信

●廣山壽男氏通信 (京都醫科大學小兒科醫局)

(明治四十二年卒業。十全會宛)

謹啓時下嚴寒の候に御座候處諸先生を初め先輩諸兄には益々御壯健に被遊
 候哉御伺申上候私事母校卒業後間も無く郷里に於て開業致し居り候へ共小
 兒科研究を思ひ立ち昨年七月一日以來京都帝國大學醫院小兒科に介補さな
 り申し候に付只今にては大凡病院の狀態も判明致し候へ共未だ充分ならず
 候間當小兒科の事のみを少々御話し申し上げ候扱て吾々醫事卒業生は大學
 醫院に入るには先づ介補にならざるべからず此れに成るには己れの志望科
 の部長の知人より依頼を願ふ方宜敷様存ぜられ候而してもし介補の欠員あ
 れば大抵採用せらるべく候扱て介補として無事採用せらるれば院内にて仕
 事は他科は精しく存ぜず候へ共、小兒科にては午前中は外來診察所に出て
 患者の豫診を取る此れは成る可く獨乙語にて書く事を要し候しかし絶對的
 で無く日本語にても宜敷候其の他、血液、咯痰、糞便、尿等の顯微鏡的、
 化學的検査、胸腹水の試験的穿刺、ビルケー氏反應其の他一般診斷的検査
 及び爾來患者の處方書等を交代にて從事致し居り候斯様なる事に午前中
 は經過すれば午後は午前患者より採り置きたるものにて、例へば「ワイ
 ダール反應」「アツセルマン氏反應」或は細菌の培養、培養基の製造、内科
 的小手術、例へば、腰推穿刺、胸腹穿刺等の補助、其他先輩助手達の「ア
 ルバイト」の手傳ひをなし、又餘暇を以て自分の研究せんとするものも充
 分研究する暇有之候此の方面に向つては材料は非常に豊富に御座候又圖書

も随意に閲覧を許され候講義も自身の暇ある限り聴講出来申す可く候、斯様な事を日々繰り返し居り候尙介補にて初めより入院患者を擔當する科も有之候へ共或る科にては、當分擔當せざる科も有之候之れ等は其の科の部長の意見に御座候尙醫專卒業生は初めは介補なるも其の人の力にて、助手、或は其れ以上に成る事が出来申し候目下小兒科にて介補三名は定員に御座候他科も其の位は定員と存じ候尙又當醫科大學にも撰科ありて己れの志望課目を撰び撰科生として入學出来申す可く候撰科生は學生と殆んど同待遇にて授業料一ヶ年五十圓を要し入學期日は一定せず其の科の部長の許可をうれば何時からにても宜敷様に候其の人員も各科に制限ありて其の人員も部長の意見にある様に御座候小兒科には目下二名の撰科生有之候尙終りに當小兒科に於ける診察の模様を一寸御話し申上げ候、受付時間は十時迄にて先づ、大鉢患者は集まれれば新患者の主訴を極大畧に問ひ其の内、傳染病は勿論、其の他傳染性疾患例へば、麻疹、百日咳、流行性耳下腺炎、水痘、丹毒及び之れ等の疑ある患者を分離して、小さき室多數ありて各疾患の種類にて、各別の室に入れて其の室にて診察致すべく候其の他非傳染性患者は普通の診察室にて診察致す可く候而して新患者は月水金は教授平井博士、火木土は助教三浦博士は診察致され候、爾來は之れを奇數、偶數に二分して、助手達は診察に従事せられ候其の他土曜日には平井教授は奇數偶數と各週交代に爾來患者を診察致され候尙新患者にて、幼兒を除くその他、尿を取りうるものは全部検査致す可く候。

大正四年一月廿五日

京都大學醫院小兒科にて

廣山 壽男

●坪田義門氏通信

(四十二年卒業。二等軍醫。十全會宛)

(前署)當地は本年は元旦以來身体に感ずる寒さは強からず昨日などは風も

なく終日ボタ／＼雪降り道路は珍しく泥濘的となり宛然故郷の態を呈し候但し本日は快晴なるも酷寒にて一寸外へ出てゝも手足耳など痛く、パチア(露式燧燼)ある小生の居室も漸く攝氏十二度を保つのみ、二重硝子窓の外扉には氷紋美しく結び居り候(後畧)

大正四年一月八日

新旅順鷺町陸軍官舎八五

坪田 義門

●北川文松氏通信

(明治四十三年卒業。在鮮守備隊軍醫)吉田圓磨氏宛)

拜啓其後は碌々音信も不申上失禮仕候處如何御消光遊され候哉不相變御盛況の御事と泰察候俊寛にもあらざる小生島流しに逢ひ今では大分朝鮮化仕候只行けるのだ若い時には少し海外へでも出て見給へ云はるゝ如何にもそうかなと思はれ候へとも來て見れば流石に亡國だけありて茲に學ふへきものは一つも御座なく候強て云へばキースン(S)の顔が奇麗な位が稍見るに足るものかこれは譯の分らぬ朝鮮語を話されてはイクラ艶つぽい話でも色消してウンザリ致し候京城と云ひ龍山といひ兵庫と神戸の如き關係にて相續き居り候電車にて十五分もかゝれば京城の中心地に足を運ぶを得べく候漸次日本式に建て換へられつゝありて鮮屋は郊外に壓迫され彼等の脇から見れば癌組織が健康組織内に侵入せるが如き感可有之候新建の箇所は中々氣の利いた建物も有之候朝鮮家屋は都云はす田舎と云はす一樣にして凡て低き一階造り四壁は石と土にて固め屋根(藁又は瓦)を葺きたる迄にて室は一間四方が九尺四方位より大なるは稀にして凡て溫土爐と相成居候溫土爐は一言せば床下に火を焚きて採暖を圖れるものに候即ち鮮屋は防寒設備以外に於ては採光も換氣も氣容も一つも顧慮する所無之從來は大小便まで此の狭き室内に容器を繰ひ置きて、Entleerenすると云ふ奇習有之

候此頃地方官憲大に手をつくし大分便房特設され候も田舎にては中々普及するに至らず候男も女も煙草が非常に好きにて一尺乃至二尺のラッパに小皿大の雁皿をつけたる煙管は四六時中彼等の體より離さるゝ事なくドンナ汗膏を絞る仕事をする時にても決して口より放さず優々裕々煙をふかし居候事は初目には最も奇異に感じ申候氣候は割合寒からず今迄零下七度半に降りし事が最低に御座候に役所の方も防寒裝置真好にして凍死する事も御座なく候間御安心被下度候師團長以下官舎住ひのチョンガ一なれば何れも無聊に苦しみ居候未だ皆々カト一候へとも二ヶ年もこゝに幽居せしめてカト一なつて居れさば生理上如何かと思はるゝ次第に御座候但し守備の大任を全うする上ださ申さるれば其れまでに御座候、何は宛に角小生の天職上現今の如く机上に五寸の管毛を操つるは甚だ策のあたるものならず世事暗き新領土に加ふるに世事暗き仕事をなし居り候ては八方暗に御座候面白き御經驗談も御座候はゞちと御洩し被下度願上候當地も少し探れば同學の士も有之るへく候へとも憶却でそれもいたさず宿舎にかへりては玉突に謠曲位で暮し居り候今日は折角の日曜なれども昨日より雪降り二三寸積り候儘散歩もいたさず暖爐に親しみ居候長らくの御無沙汰を御詫して旁御近況御伺申上候古谷、深谷、奥田、谷川(此頃警察醫となられし由新紙にて拜讀)其他の諸兄に筆無精いたし居候儘御序の節よろしく御玉聲被下度願上候時節柄御機嫌よろしく奉祈候不宣

在朝鮮龍山第九師團司令部附

北川 文松

●馬詰定衛氏通信

(明治四十四年卒業。開業。那谷氏宛)

鬼は外! 福は内!! 今晚は節分です金澤ではあまり豆をまかぬが私の方は家

家によめをまきますその豆を拾つてたべるさ雷様がこわくなくなるそうです昨日も今日も雨さ烈しい風ですしかし風の絶え間には細い雨がシトシと降り軒の雨垂の音も何となく軟かく春らしく殊に山の雑木林の間にはかすみか漂よつています梅の梢は四分通り花になりました日あたりのよい所はたんぼの早いのが咲きそうです牡丹も赤い芽を出しましたかくの如くにして南國の山村の春の色彩は刻一刻と濃くなりつゝあります時節柄御身大切に祈る近々御めにかゝる事が出来るかもしれません。

徳島縣勝浦郡高鉾村

●吉田圓磨氏通信

(四十三年卒業。自宅開業。十全會宛)

名物の雪さチラつき寒氣人に迫り來り申候處先生初め皆々様には其後御變りも御座なく益々御健祥の段慶賀至極に存候降而小生事相變らず壯健にて日々ランドアルツトの本能を遺憾なく發揮致居候間乍他事御安意下され度候何時も乍ら筆不性にて昨今の如き所謂「蜜柑の熟したる」シーズンに於てすら更に筆さる氣にもなれず皆々様に御不沙汰のみ致居候段平に御容赦下され度候今では同窓の諸君も大概カタが附いた様にて誠に轉々として移變するバックの有様寧ろ面白く片田舎の藪の影からこれ等の視野に眼を注ぐ時はせめてもの慰藉さ相成申候實に不活潑なる田舎に在つて不規則なる生活營み不徹底な頭腦を以て日々退歩に退歩を重ねつゝも尙ほ且つ幾分の自惚やら自覺やらで個性の満足を求め居候小生等の現況は誠に御目出度き限りさ申可候但し不徹底な頭腦もゲルドに對しては頗る徹底し、不規則な生活もツインに向つては頗る規則正しく、不活潑な田舎も小せり合ひには頗る活潑に飛躍して日も是れ足らざる半面より見れば亦實に憐む可き限りに候はずや、疾病を診るに非ずして患者を診る事を以て僞らざる告白さ

せばかの支那流の長袖糸診の類を敢て笑ふ可きものに候はずと存候
何はさて措き慥しき御地の状況や、母校の發展などは最も小生等の痛快を
叫びしむる所にてせめて一年に一回位は見學にも参り度き考に候へども萬
事現實にのみ囚はれて本意なくも唯時々會合などにて御尊政居位に御座
候當地にては春秋二回の官立醫專校友會なるもの有之ナカ／＼の盛況を呈
し會員も已に六十有餘名に達し各自珍らしきテマを掲げ大に情誼を溫め居
申候前年より本會を公開し官立醫專の銘を廢し各種の希望者をドン／＼入
會せしめては如何との議論も有之候へども今尙ほ宿題のまゝに成り行き居
候會員中母校出身者最も多數を占め小生の同窓としては重野諦、深谷藤市、
古谷強、佐々木寛、奥田秀的、谷川彌、巨田政信、絹川義溫、加茂智榮君
等の元氣者各々異彩を放つて控へ居り申候重野君は一般開業に従事し其後
餘り消息を聞かず候へども益々健康を恢復し附近の評判も至極よろしき由
に候、深谷君は退營後間もなく耳鼻咽喉にて開業し新進氣鋭、例によつて
錯々として響を發し居候今でも昔の様に浪花館の一節位は手術片手にうな
り居申候、古谷君は郷に入つて益々溫君子の域に入り内科を以て着實に
「グランド」を固め居候昨春花の如き嬢を挙げ和氣瀟然たる家庭の主となり
申候前二君共に日々の往診には自轉車で威風四邊を壓し(?)居り申候、佐
々木君は肺癆科で開業し福井市に私立肺結核早期診斷所なるものを置き日
々を定めて出張し大に發展致居候誠に愛嬌たつぷりにて吾徒の花形役者の一
人に御座候、次に奥田君は家傳の膏藥に味を占め(マサカ)外科専門にて開
業し今ではアンブタチカン位は平氣にやつてのけ居候近來入院患者も激増
し祖君の名聲を大に發揚致居候目下本會幹事の一人に御座候
谷川君は一昨年芦原溫泉所にて花柳病を以て開業し夥多の浴客を大にアテ
込み候も今同じむを得ざる都合上三國警察醫に轉任致候昨日君よりの書に
曰く「急頓に芦原要需を陥落し三國砲臺に突撃し云々」と何時も乍ら軍隊
式なるはうれしく存候巨田君は其後吉井病院を去つて遠敷郡に於て開業致

され候多分 Moser & Hammer と存候が本夏「ラーザ」を買入れ矢張り威
風凜の一人に御座候、絹川君は三國高松分院長として頗る評判よく赴任三
年今では大分福井化政候勿論學生時代とは大にハイカラの度を高め申候事
は時々雜貨やの小僧から承り及候加茂君は目下武生警察醫として日々活動
致居候、以上の他に爰に武長壽雄君有之候君は一昨年冬自宅にて内科を主と
して開業せられ大に中外の信望を博し候へしに一朝病を得て悲風一過秀才
を抱いて逝去せられ候儀誠に終生の恨事に御座候
本會の他に小兒科地方學會及び獨乙語學會(?)なるもの有之候前者は御存
じの通り大月氏の名望と共に益々健全なる發達を遂げ居候、後者は福井市
の心ある醫師數名を以て組織せられたるものゝ由にて其内容は小生未だ入
門の榮を得ず候まゝ御知らせ申乗候へども何んでも、頗る Original なし
かも Shindait なものゝ聞及居申候、尙其他本縣の醫師會中特筆す可きは
今立郡醫師會の月次的に眞摯の態度を以て發展をなしつつある一事に候、
やがて當地に開かる可き北陸醫學會にも定めし本會より澤山の御土産を出
し申可く會員諸君の熱心なる研究は實に本縣醫師會を代表し一般の民間衛
生に至るまで絶好の模範を示し居申候聊か廣言の様に候へども醫師會あつ
て後警察行政あるは實に本郡の特長にして他は皆警察あつて初めて醫師會
動くの觀に忍びず候
次に縣醫師會は各郡醫師會より撰出したる委員を以て組織せられ主として
社會問題を議論する機關に候は何處も大低同様に御座候が本夏發布せられ
し肺結核豫防の縣令(數條有之候へども其中論争の中心となりしは醫師若
し肺結核及之に疑はしき患者を診察したる際は其患者の姓名住所年齢等を
毎月三日までに所轄警察署へ届出す可し云々)に對する縣醫師會の激烈な
る抗議の如きは誠に人權を尊重したる手段と申す可く其結果不遜の官徒な
して遂に風靡せしめ候なごは時にさりて實に一眼の清涼劑たりしを失はず
候

次に我が吉田郡醫師會も春秋二回開催致居候會員總數廿一名にて内母校出身者は春日健治、中條俊夫、山田外來雄、宮越常次郎、田山退一の五氏及び仙臺出身一、慈惠出身一有之候春日君(三十五年卒業)は内科小兒科を主とし頗る溫厚にて優しく益々圓熟の境に入られ申候中條君(三十七年卒業)は内科を主とし旁ら本郡の警察醫として夏期はトラホームの檢診に従事し附近の名望は其謠曲と共に益々高く候山田君(四十年卒業)は一般開業にて頗る紳士的氣分に富まれブラクナツシュに成功せられ候近々宏大なる診療所を新築の筈に候、次に宮越君(三十五年卒業)は外科を主とし頗る氣概に富み万丈の氣焰は斗酒と共に益々上り申候田山君(四十二年卒業)は主として内科小兒科を標し恐ろしき鳳髻(口惡き連中は大學目藥とも尊稱す)にも似ず溫厚篤學の徳高く昨年醫院新築以來門前益々市をなし居候以上の如くにて年齢から申しても七十歳以上の二人、共に壯者を凌ぎ小生の如きは其中に伍して最も弱年者に御座候は何より前途有望と申す可候而して本郡醫師會は又各小部會に區分せられ小生の屬する東部會などは殆んど毎月懇談會を開き美妓美酒を座邊に侍らせ遺憾なく命の洗濯を致居候、かくの如く本郡にては未だ嘗て學會らしきものと無之單に一夜の座談討究に過ぎず寧ろ「茶少引き論」「喘歌の解」などと云ふ奇抜なものゝ歡迎せらるゝは聊か慷慨の至りに御座候

何處でも存在を認めらるゝ非醫者、舊産婆の多きは當地も御多分に洩れずナカ／＼奇抜な「テラピー」も散見仕候、かの「アロペカントロピー」的な稻荷サンの御宣託、弘法大師の灸、篠座神社の御水等一々枚舉に遑あらず候へども一つは患者側にも「ミンデル」多く、爲めに種々の滑稽を演じ申候例へば凡ての病氣を「熱だ」「熱が焦げついたのだ」で會得し、瘧疾を花柳病の一種とされて極めて恐れ、注射を身体が弱るゝと逃げ廻り候など、しかし之れを我が産婦人科に於ける迷信なる因襲に比すればまだ／＼上等の部類に御座候、

尙當地にて一寸奇なる現象は堂々たる醫師にして賣藥を兼業するもの多き事にて寧ろ賣藥の一ツも出來ぬ醫者は大家に非ずと云ふ結論に達し候、何々湯、何々圓、何々散、何々膏、胎毒下しの類は其醫師の技倆を問はず羽が生へて飛ぶが如く賣れ行き候は醫藥分業だ、傳染病取締りだ、醫權擴張だに抵觸するなく極めて太平樂な現象と云つて可然候小生も今に肺病其他一切によしてふ何々散でも發賣し新たに邸宅を構へ、傳染病院の様なものでも新築して所謂郷土の榮譽を一身に荷ひ度き考に御座候

我が村も電車の開通によつて稍々文明の潮流を高め申候此際「母校のクラス會などには是非我が村を横切つて永平寺行きと遊ばされては如何に候や切に希待致居候、先は永らくの御不沙汰を御詫び申度くツイ／＼「みゝすのたばこ」流に相成り御判讀下され度候勿々敬具

大正三年十二月十九日

福井縣吉田郡東藤島村島橋

吉田 醫院

● 中野憲吉氏通信

(大正二年卒業。兵庫縣美責郡日吉川村ノ内大島村)

去年十二月早々より京大賀屋内科介補として通勤致しむり申候京大は東大に比し萬事につき優遇致し呉れ、居る者をして愉快に研究せしめ候点は不肖の最も満足とする處に有之候自分ば至つて無能何の爲す處なき者に候へどもこの順境を與へ呉れられし諸先生に對し母校の名の汚れざる様大いに注意可致候間何卒御心安く思召被下度候

患者の數よりも寧ろインテリサントのファルに富みる事及び新刊書籍の多きため隨意に奥義をきわむる事も出來申すべく候然し其の後は寒風凜々たる比叡風しの京都市を縦斷して早朝より夕方まで勤務いたし是ぞ金澤式よ是ぞ松原先生より教はりし精力主義よなごゝ心中にて獨言しつゝ頗る趣味

深き生活を續け居り候間之亦御放念の程奉願候

當大學にて金澤醫專出身者は先日來まで杉原君(婦人科)小山(糸川)君は病理、教室、駒田君(佐々木内科)に御研究の處杉原君は何れかの病院へ小山君は一年志願兵駒田君は半月前歸國されしまゝ、歸院なく多分御やめのよし承はり候只今の處では小生一人に御座候。

大正四年一月一日

憲 吉

●鹽村和喜男氏通信

(大正二年卒業。十全會宛)

講習終了後當時幸にも山崎先生御上京の砌りまで先生の御紹介にて第三部長室石原助教教授の下に御指導を受くる事に相成り万事特別の便宜を與へられ喜び居り候。

研究所内は第一部作業室(一般細菌、當室に研究所の菌株保存致され候)第二部作業室(細菌化學?)第三部作業室(一般細菌殊にペスト)第四部作業室(一般細菌殊に赤痢)第五部作業室(血清室、即ちデフテリ、デタヌス)獨結核室病理室痘菌室ツッセルマン室チブス、コレラ室狂犬病室等有之様存じ候或は間違之有るやも計られず候。

講習中は毎日午前八時より午後四時迄にて午前十時より二時間講義有之餘は専ら實習に御座候尤も當時の講習は實地を主とするものなり北里所長よりの訓辭最初に有之候文部省の講習は如何なる方進に候や一月二十日以後に知る可く存じ候講習生は三十名餘にて各々勉學怠りなかり候ひしが遺憾にも移管問題講習期中突發致し候事さて諸先生より技手諸氏に至る迄全部辭任致され最も路頭に迷ひしは講習生にて御座候諸先生の御好意に依り御辭任後も講義は移管前同様内容には少しの變化なく有之候も時日に餘祐なきより稍々急速力と相成講習生一同も何となく落ち付き無之模様相成

り見學もソコ／＼に切上ぐ可き事と相成り損害は随分有之候然かし後任諸先生の講義も有之免も角講習は豫定の期限にて終了仕り候次第に御座候見學には長濱檢疫所、府下全生病院(レプラ患者收容所)赤十字病院、駒込病院、帝大病理學教室等に御座候小生儀講習中培養基製法、各菌性狀形態等は習ひしより作業室にては専ら免疫反應勉學致し居り候昨年末より免に一種の傳染性下痢流行致し免疫中の免にて斃るゝもの拾頭餘有之誠に困難致し居り候約一週間後よりは狂犬病作業室に入り度き存念に御座候後任諸先生も多くは大學と兼任の爲め大抵各日位の御出頭には不便からず候病室有之候も收容患者目下七名の由外來も御座候も一般に研究所は臨牀上には關せず候作業室は移管の爲め残るは菌株位昨今漸くに整頓に赴き候。

一月十三日

東京市芝區白金三光町八八、木口方

鹽村和喜男

●清水亮氏通信

(大正三年卒業。一年志願兵。十全會宛)

謹啓餘寒嚴しき折柄各位には御機嫌如何に御座候哉奉伺上候降而小生に底を以て無異軍務に服し居候間乍他事御安神被下度候。

懷かしき母校を去りて三ヶ月軍隊生活に入りて二ヶ月を経過仕候此間身体の發達に實に驚く計りにて休重の如きは二ヶ月を出でずして八百目の増加仕候も Kopf は之に反して日々退歩するの傾向有之候。

軍醫生としての一年志願兵は七名にて大學出身三、金澤二、千葉一、愛知一、に御座候而して志願兵特に夜八時半より十一時頃迄自習時間を與へられ一室に集合致し居候も室内には何等暖を取るの設備なく隨分困却仕候も此れも一の修養と心得居候入營當時最も小生等苦しみたるは針を持ちて破損物を修理する事と班内に於ける塵埃にて後者に就いては志願兵一同衛生

學上より大々論難せし處反つて上官より説諭を受けて引き下りたる事も御座候。

目下は各個教練にて終日不動姿勢、執銃演習等を致し居候。

睡眠、酒保、外出は兵卒の三大樂しみとせるものに候も近頃は日曜外出も銃の手入不充分にて時には外出止めと相成る事も屢に候。

軍隊に入りてより大食となれるは自分驚く程にて平常の二倍三倍位は平氣に御座候。

承れば本年度より母校も卒業試験早く卒業期も短縮の由衛生のため大に賀すべき事に有之候今後益々發展の程祈上候。

尙ほ諸先生皆々様にもよろしく御鶴聲下され度願上候先は御機嫌伺ひ旁々御報告迄申述度如斯に御座候草々不一。

二月十二日

歩兵第一聯隊第一中隊一年志願兵

東京赤坂檜町 清水 亮

堀田愼之氏通信

(大正貳年卒業。海軍少軍醫)

在佛領ニューカレドニア、ニヌメア。軍艦鞍馬

拜啓去る十一月二十五日ヤルト島發廿七日赤道通過十二月三日英領フィジ島スバに入港致し候、ヤルトより千六百八十哩、赤道通過後少しく風浪荒かりしも、さして航海には影響無之候スバ町は人口約二千在留邦人廿六名、多く半勞働に候、去る九月頃英國濠洲艦隊入港の際歡迎力を消耗せしもの比較的冷淡なるも英國式かとも思はれ候、スバを去る十二月八日に出港し十二日に佛領ニューカレドニアのニヌメアに入港致候此島には「ニツクル」嶺山に契約移民として邦人年々移住し目下三千五百人諸處に散在しニヌメアにも四百人以上も在住する由に候、戦役後、失職者多く一時

日本人の暴黨計畫もありしよしなれど事なくして靜鎮せし有様にて随分酷い連中を多く見受られ候東洋貿易會社神戸に本店ありの支店などあり有方なる邦人も有之上陸の際各種の便宜を得られ候も佛語のみにて英語は通せず、佛語を解する人少數なれば、手足の萬國信號はなかく巧妙に使用せられ居候「日本には漁車があるかい」など、輕侮せし佛人の御連中は随分多數有之よし、これ等の手合ひの堂々たる艦艦を見せられて頓に容儀を改め、艦内の觀覽を許せる時は、全市民悉く來艦、等しく驚嘆致し居候、在留邦人は肩巾を廣くして喜び居候。

到着の日は風浪荒く灣内すら白浪泡立つにも不拘市民は「ヨット」を走らせて歡迎の意を致し、熱狂的國民性を發揮致し候。

フィジ、ニューカレドニア、土人は七十年前までは喰人種として悍猛を恐れられ居候も、全く教化せられて今日、斯かる蠻風を留めず、スバに於て博物館内、人肉食用器物を巡覽の際土人に人の肉を喰ふ眞似を致し候處頗るしなめ居候土人は至る處、日本人に對して敬意を表するに吝ならず、外人は往々にして、日本人支那人を誤る事あるも土人には決してかゝる事有之由に候。

今や、横暴を極めし獨艦隊も南米に於て英艦の爲殲滅せられ候へば當局の任務も大低一段落致し候譯にて不日歸國の事と可相成甘い汁を英艦に呈上せし段は遺憾に御座候。

本日運送船歸國の便有之候まゝ、御一報仕候、小生本月八日附にて軍艦橋立(横須賀)に轉乗を被命候。

氣候はヤルト方面と變り無之候。

在、佛領ニューカレドニア、ニヌメア

軍艦鞍馬

大正三年十二月十五日

堀田愼之

● 原田四郎氏通信 (大正二年卒業)

(東京市芝區白金臺町二丁目三光館内)

謹啓今度小生大阪市より衛生學、細菌學研究の爲め東京市に出張を命ぜられ目下表記の地へ下宿致し居候出張は三ヶ月の豫定に候。

三ヶ月は「傳研」を「北研」の兩講習會に入る考へに候已に「北研」は十二日より聽講致し居り候「傳研」は二十日より開始さるべく候「北研」の講演御參考迄に「プログラム」同封致し置き候。

在京同級生は樂山堂病院に林文桂、齊藤、の兩君鐵道院の常盤病院に細川孝一君居られ近衛師團に橋虎次郎君第一師團に大瀧經君いづれも一聯隊附志願兵を致され居候。

病院内科二部の鹽村君も御滯京の由まだ面會の機を得ず候。

一月十八日

北里研究所補修講習會

- | | | |
|----|----------------|---------|
| 一、 | 血清療法の一 班 | 北 島 博 士 |
| 二、 | 「ワクチン」療法の一 班 | 同 |
| 三、 | 細菌學及免疫學的診斷 | 同 |
| 四、 | 「アナフィラクシー」及血清病 | 秦 博 士 |
| 五、 | 免疫學に於ける類脂肪体の意義 | 照 内 博 士 |
| 六、 | 防 衛 酵 素 | 同 |
| 七、 | 結核療法の進歩 | 北 里 博 士 |
| 八、 | 「腸チフス」及「パラチフス」 | 志 賀 博 士 |
| 九、 | 細菌學的診斷並療法 | 同 |
| | 赤痢及疫痢の病理及療法 | |

十、「發疹チフス」の病原及病理

十一、微毒の診斷

十二、微毒の療法

十三、化學的療法の一 班

十四、傳染病に於ける細胞封入體検査法

十五、「マラリヤ」の診斷及療法

十六、人体の寄生虫

十七、狂犬病豫防接種

十八、種痘に關する注意

講演の順序は變更することあるへし

場 所 大日本私立衛生會 (麴町區大手町)

開 講 大正三年十二月十五日より毎週(火。金曜)午後七時より

九時迄

申込所 大日本私立衛生會

申込期日 大正三年拾貳月十日迄

全講習費 金 貳 圓

會 員 百五十名を限る

但し定數に充たざる場合は全會會員以外の入會を許す

北里研究所補修講習會

第 四 回 (大正四年一月十二日)

化學療法ノ一 班

第一 化學療法の要旨

醫學博士 秦 佐八郎

一、親和力による分配率

二、特異消毒劑の體內消毒

三、「パラシトトロプ」ミ「オルガノトロプ」

四、體內消毒の機轉

第二 従來行はれたる化學療法の實驗的研究

一、動物試験の要點

二、「トリパノソーム」病に對する研究

有效藥品の大別

砒素劑の種類及び其作用

寄生細胞の藥品不感性及び血清不感性

三、「スピロヘーテン」病の研究

四、其他の動物性寄生體に對する研究

五、細菌性傳染病に對する研究

六、原因不明なる疾患に對する研究

七、惡性腫瘍に對する研究

第三 化學療法の實地應用

一、藥品使用方法と効力及毒力の關係

二、特異過敏性

三、藥品の毒力に關係を及ぼす外因

四、分量

五、最大減芽療法

六、間歇療法

七、併用療法

北里研究所補習講習會

第五回講演 (大正四年一月十五日)

志賀 潔

「ワクシン」療法

一、血清療法と「ワクシン」療法

抗毒性血清と殺菌性血清

活動性免疫と被動性免疫

二、メチニエフ氏喰菌説

炎症と喰細胞

病原菌に對する喰細胞の作用

三、オプソニン説

「オプソニン」作用と血清との關係

「ワクシン」療法に於ける「オプソニン」率

四、淺川氏丹毒治療液

附 連鎖球菌血清

五、淋菌「ワクシン」

六、「チフス」の「ワクシン」療法

メチニコフの類人猿に於ける試験

感作生活「ワクシン」の製法

市川氏「チフス」「ワクシン」療法

●萩原 忠氏通信

(四十四年卒業。海軍中軍醫。十全會宛)

拜啓小生歸横後色々多忙の用事あり船は一隻は横濱にて警備し一隻は東京海灣の哨戒任務に付き居り候爲め目下横濱に行つたり當地に居つたり致居候來月は中旬頃迄は二艦共に横須濱に泊なれば一寸小憩を得べくも存候三月二十五日より四月十日迄は伊勢灣并に館山灣方面へ出動の豫定に有之候(後署)

二月四日

横須賀海軍砲術學校

萩原 忠

●木村豊三郎氏通信

(大正三年卒業。神戸病院。十全會宛)

卒業以來故郷に歸つて大阪私立薄病院(外科)に居ました私は此の正月の屠蘇の香のさめない内に金澤の皮膚科に行つても一度土肥先生の御世話にならうと思つてゐましたらやうした風の吹きまはしやらさう／＼神戸へ流れて來ました。

兵庫縣立神戸病院といへば神戸第一の病院です金澤の人は縣立病院を金澤病院といひますが神戸では縣立病院といつて普通神戸病院と申しません院長は外科で鈴木徳男と申しまして下平先生と同期の東大出ださうです無論學位を持つてゐられます、内科小兒科耳鼻咽喉科眼科婦産科の六科があり各科長は東大出三名京大出三名醫員は内科と外科が各四名で他は二名づゝです外の方は知りませんが外科は現今入院患者七十餘外來患者八十餘です(平均)

金澤の方は

内科醫長 淺利義治氏(三八)
眼科醫長 土井榮幸氏(四四)
外科醫長 楠野末太郎氏(大元)
小兒科醫長 山川匡男氏(大元)
外科醫員 小生

の五名で新來の小生の外は皆醫長の席を占めて居られますその他

岡山醫專 六名 京都醫專 二名 大阪高醫 一名
千葉醫專 一名 熊本醫專 一名(研究生として)
長崎醫專 一名

です今迄は、金澤が一番多かつたんださうです
去月三十一日同窓會がありました出席者十一名

以上の五氏の外

駒井定哉氏(三四) 神戸市開業
柴原外男氏(三九) 神戸市開業
橋本眞一氏(四四) 川崎造船所醫務局
松田正三氏(四三) 三菱醫務局
古屋菊男氏(大元) 海員救濟會病院
伊藤忠一氏(大三) 攝津病院

の諸君でありました當日御出でにならなかつた方も四五人ある様です、伊藤君の居られる攝津病院は神戸市の中央にありまして桂田富士郎博士の熱帶病研究所附屬病院で「セツ」病院といはす「セツシン」病院と呼んでゐます(何故だか知りませんが)。私と同期卒業の後藤俊一君は元町四丁目の大野醫院といふ大きな醫院で勉強して居られます、學年が改まるゝ大正四年度卒業の諸君が、澤山出られませうね、神戸は發展の地ですよ、ゲハルトも東京京都大阪よりすつと宜しいし。四月には神戸に學會がありますから大同窓會を開きたい方針です。

二月六日

兵庫縣立神戸病院
木村豊三郎

●大村作太郎氏通信

(大正三年卒業。大阪緒方病院。十全會宛)

謹啓拙者事毎日健康にて當院の様子等も申上ぐへき筈に候へしか何分初めての病院生活にて處方の附號も明かならず何や彼やさウロ付き居たる次第に候當院には中田・小島の兩兄(共に外科)及小生の三人にて他に京都出身二人(共に産婦人科、熊本出一人(小生より凡そ三週間後に眼科醫員となり



し人)他は皆な内務省醫に候眼科長は緒方収次郎先生に候て院長を兼ね年
齡五十五六才にて東大出身の由極めて温厚篤實なる君士的の方と見受け申
候而して殆どチャニン萬能主義に候甘米の如きは殆ど用られ不申候患者な
も見せ被下且つ説明も致し被下候て自分より質問せは極めて親切に教へ被
下候然し此の頃は患者数少なく一日平均二十五六名程にて入院患者目下の
所三名(外傷性虹彩脱出一、全眼球炎一、角膜實質炎一)に候て稍や寂々
たるものに候。入院患者は朝八時。十一時。午後四時。八時に点眼致し候
而して結膜以外の疾患には殆ど皆蒸氣療法一日四回(点眼直前)致し候科長
は十時頃から午後二時頃まで居られ候間此の間の患者は科長は見られ他は
小生等の勝手に候へ共今尙は眼底に光の充分入らぬ爲め困り居候眼科の設
備としては一通りある由に候へ共母校の病院の如き電氣眼底検査鏡の如き
ものは御座なく候手術はナルコーゼを要するものは外科の手術室にて行ひ
申候小生は眼球内容掻爬二つ割刺一つトラホーム三つの睫毛創生一つアツ
セスタンスを命ぜられ候然し今後の手術は熊本出の人と交代に副手をやる
事と存候

外科は(科長田中敏氏。九大出身)目下原田兄は傳染病研究所に出張中に付
き中田兄は其の間行き居られ候爲め小島兄一人にて小生は眼科に居て午前
中丈々繃帶交換を見習かたがた手傳致し居候然し外科も患者少なく外來十
五六人にて入院十八九名は十二月より一月に懸けこの状態に候而して手術
の義は如何なる種類にても殆ど致す様子に候が此の頃は大きなもの少なく
時とせば二三日も手術なき事も御座候二三日前乳癌の手術ありしは近時の
最も大なる手術に候而して全身麻酔は極めて少なく四肢及腰部以下は殆ど
悉く傳達麻酔が腰髓麻酔に候而して沃度下機を創面に塗布する事多きと過
酸化水素を多く用ゐるのと外科に於てリゾールを多く用ゐる等は母校の病理に
ては一才見られぬ点と存候外科及婦人科眼科の手術室は一所にて二つ御座
候なか／＼美しく出来居る様に見受け申候然し開腹術の室は少し冷過ぎ

る爲め火鉢を二個も入れ申候点は之れまた母校の病院にては見た事なき事
と存候外科長は至つて開放的な方に候て少々患者をイザツテも何も云はれ
ざる由に候

内科は(科長は副院長緒方収次郎氏永く獨乙にて醫學を學ひたる由)内務省
醫二人に候て近時入院十五六名外來二十名程との由に候。

産婦人科は科長内野氏にて九大出身に候て極めて親切なる方に候。近々十
二月と一月との間に前置胎盤にカイセルシュニツト二つ行て一つは母子共
に健在、一つは子は死亡致し候が日本にはあまり例なき事と自ら大に喜び
居られ候昨日も卵巣嚢腫の手術御座候て小生も見申候

耳鼻科科長九大出身山本氏は醫員一名(内務省醫及前期試験を受けたる
人一名)に候て小生は手術ある毎に殆ど行き見て頂き居候小兒科は科長
緒方光太郎氏は獨乙ドクトルに候。

齒科は緒方六治氏科長に候て米國育の由に候甚だ人格高き方の由に候患者
も随分多く近時は平均四十名ある由に候而かも大抵上流の方多く來るとの
由に候て極めて圓滿なる人格を有し居らるゝ由に候

治療科吉川氏と申す白髮の老人は科長に候は主として電氣マツサーザ致
し居候

皮膚科は(科長田村氏。福岡出)醫員なくX線科を受持居られ候X光線は寫
眞用にはよきと治療用としてはあまりよきものにあらずる由外科産婦人科
及耳鼻科等の知き手術的のものは多く朝に行はれ候て外來患者の來らざる
前に候間殆ど悉く見る事出来申候本朝もゲアルトを一つ見申候之れ小生が
生れてよりゲアルトを見たる初めに候其他何科にても科長に一寸案内して
自由に入り申候唯だ皮膚病花柳病丈は此の限に御座なく候然しレントゲ
ンは自由に候病室は百七十有之候へ共患者の收容力は百二十程との由に候
院内には發電所あり食堂あり(中食は院長以下悉く食事を共に致し候)娛樂
室ありまた動物小屋も御座候(目下家兎七匹御座候)娛樂室には突球、碁等

も御座候醫員の多くは當直室にて起居致居候各室にはスチーム及電燈御座候醫員の俸給は大學出は初め三十圓醫專出は二十圓内務省醫は十八圓との事に候而して半ヶ年に五圓上る事なり三十圓になれば一寸上らぬ規定の由に候當與は年二回、(六月及十二月)一ヶ月乃至二ヶ月分ある由に候醫員は皆な病院の夜具を用ゐ而かも當直室附の小使一名御座候て掻掃除其他の事一切致す事と相成り居候食事は朝は四錢中食は十錢夜は八錢の由に候て一食毎に經算する事となり居る由に候て一ヶ月大凡七圓以内に足る由に候。

亦院長、外科長などは研究的を喜ばるゝ様子に候而して染色液や、培養基材料其他研究的のものとしての機械等なぞ十圓や二十圓のものは小言なしに購求め被下は院長の有難き点との事に候目下地下室にて細菌培養をやる考にて小島兄は主として計策致し居られ候四五日前に孵卵器の調節出來たる次第に候ミクロトームなども随分よきものであるとの事に候へ共目下小生等の用居るは古きものに候が然し之れでも先つ今の所は結構と存候先達より眼球四つ及外科的標本五六種作り申候本や雜誌も少し見たり標本を切て見たり致し居候然し基礎醫學の智識なき爲め何をして見ようと思ふても一寸出來ぬのには誠に困り居候當病院の状態は大体上記の如き有様に候て設備として小生も他は知り不申候へ共左程不完全とも思はれ不申候。而して毎月十五日には醫事講話會御座候て各科より必ず少くとも一名は出演すべく出演せざる科は壹圓の罰金にて醫員は欠席せば三十錢料長は壹圓の罰金に處せらるゝ定め由に候一昨日も講話會御座候。小生は崎山兄の紹介にて當院長に眼底検査を乞たる患者に就て報告する考にて院長の助手に依り漸く多發性硬化と診斷を付け尙ほ血壓や脈波も檢したる上出演すべく院長に申し居候へしが當日患者不參にて止め申候部會でもあり且つ病院の性質も幾分異なる爲めかは知り不申候へ共母校の病院と少し異なる風ある様見受けら候れ即患者中に御客様氣取りする人ある様に見受申候中には診

察室に入り來りて帽子も取らぬ人も往々見受け申候而して尙ほ病院に來る雜誌類及當院の規則らしきものは別紙の通りに候尙ほ洪庵文庫と申し美しき健物あり中に書物は隨分御座候醫員は勝手に行きて見る事出來申候。母校出身の集會も新年に開催せらるゝさかの由に候へ共今に何等の事も御座なく候間或は諒闇中の事故御遠慮申したる爲めかとも存候。

小生も少し病院に馴れたる後は當地の慈惠病院(當院の副院長緒方収次郎氏は院長の由)にでも行き見學をさせて頂く様に先日副院長に話し申候當病院は午後四時までに候間四時以後は一日交代に自由の身と相成る事に候間一日番に四時から慈惠病院に行く考に候然し今日まで一度も行きし事なき爲め様子も分らず行くか否なかも確定致し申さず候尙ほ高等醫學校に二月より講習會あるとの事に候間時間の許す限り都合して行きたしと存じ居候へ共之れも時間は如何なるか今尙ほ未定に候亂策にて御赦被下度候。

大阪市西區新町通三丁目緒方病院内

一月十七日

大村作 太郎

當院に來り居る雜誌は左の如くに御座候

Zentralblatt für praktische Augenheilkunde.

Wochenschrift für Therapie u. Hygiene des Auges.

Centralblatt für Bacteriologie. (Originale)

Zentralblatt für Bacteriologie. (Referate)

Zentralblatt für Gynäkologie.

Allgem. Deutsche Hebammenzeitung.

Zeitschrift der Geburtshilfe & Gynäkologie.

Sammlung der klinischen Vorträge.

Beiträge zur Geburtshilfe.

Der Kinderarzt.

Archiv für Kinderheilkunde.

- Beihette zur medicinischen Klinik.
Internationales Zentralblatt für Laryngologie & Rhinologie.
Zeitschrift für Ohrenheilkunde.
Medicinische Klinik.
Münchener med. Wochenschrift.
Archiv für Ophthalmologie.
Graefe, Jahrbuch der gesamten Augenheilkunde.
Archiv für Augenheilkunde.
Klinische Monatsblätter für Augenheilkunde.
Zentralblatt für Kinderheilkunde.
Jahrbuch für Kinderheilkunde.
Zeitschrift für Tuberkulose.
Zentralblatt für inneren Medizin.
Therapeutische Monatshefte.
Therapie der Gegenwart.
Zentralblatt für Chirurgie.
Deutsche med. Wochenschrift.
Deutsche Zeitschrift f. Chirurgie.
Centralblatt für Chirurgie.
Zeitschrift für Urologie.
Dermatologisches Zentralblatt.
Archiv für Dermatologie u. Syphilis.
Zentralblatt für Röntgen & Radium.
Dermatologisches Zentralblatt.
京都醫事衛生誌
神經學雜誌
東京醫學會雜誌
京都醫學雜誌
中外醫事新報
醫事新聞

- 好生館醫事研究會雜誌 日本醫事周報 研瑤會雜誌
成醫會月報 醫事公論 刀圭新報
岡山醫學會雜誌 大日本耳鼻咽喉科會々報 國家醫學會雜誌
中央醫學會雜誌 日本眼科學會雜誌 藥石新報
北越醫學會雜誌 大日本私立衛生會雜誌 鎮西醫報
藝備醫事 通俗衛生 大阪醫學會雜誌
廣島衛生醫事月報 顯微鏡 救濟研究
細菌學雜誌 助產之架 日本婦人科學會雜誌
產婆學雜誌 東京醫事新誌 醫海時報
順天堂醫事研究會雜誌
當院の藥價手術代等は、大抵左の通りに御座候
視力検査及眼底検査 貳拾錢 (四角)
洗眼丈けは 拾錢 (丸)
洗眼して点眼せむ 拾五錢 (三角)
洗眼して点眼して蒸氣療法せば 貳拾錢
トラホーム手術一回 壹一貳圓 (日一日二つ)
七拾錢 (天三四角)
麥粒腫切開 四圓一四圓五拾錢
義眼 其他一寸手術らしきものは四圓一拾圓
他科の入院患者にして眼科に來る人は治療費半額
誠につまらぬ事澤山記し申候へ共之れ當病院の狀態に候

●大村作太郎氏通信 (其二)

謹啓餘寒の候益々御勇健の段大賀の至りミ存候降而拙者事健康にて同窓三人親しく暮し居候病院の方も近時患者數も稍々増加の傾向との由にて先つ

「喜ばしく感じ居候新聞紙等にて承り候へば母校に於ても學年等の變更等もあるやの由時勢に伴ひ誠に目出度き事と存候先達當地に於て母校同窓會開催せられなかく盛大なる感致候何れ四月頃には神戸大阪京都方面の同窓相集りて親睦を計るゝの由に候

院長(眼科長)の人格には醫員を初め看護婦、入院患者に至るまで敬服致し居候小生も近時院長の氣付きたる角膜の病(汎發性角膜表層滲潤と命名せられ候)を報告する様半許可的半命令的に申渡され候て明治二十七八年頃よりの例を調べ出し居候が此處に一つ困り申候事は獨乙語を知らぬ点に候洪庵文庫に入りて見るも悉く洋書ばかりにて字引を以て讀みかゝる時はなかなか時間を要するにば困り居候之れも自業自得と思はば何等悲觀も致さず一步一步進む事出来れば結構と存じ居候隔日に午前にて診察室の責任はなき事故本月中旬より當市の慈惠病院に通ふ積りに候當院の副院長は慈惠病院の院長に候間相當の便宜も得らるゝやと考へ居り候

大正二年度外科患者統計表

	外 來	入 院	新 患	手 術
一 月	一一七六	四八一	一二〇	一四
二 月	一二〇二	五〇八	一五一	二四
三 月	一五四八	六八一	一六四	二九
四 月	一六四二	六九五	二一〇	三一
五 月	一四九四	七三八	一五五	二六
六 月	一四九三	七二四	一七〇	二一
七 月	一三八六	七九六	一五六	一八
八 月	一一二七	八九四	一四一	二〇
九 月	一二九〇	八一五	一六〇	三〇
十 月	一〇八四	八五八	一四四	一九
十一 月	一三二七	一三三九	一三六	二三

十二月 一三〇 一二七 一三五 二八
大正三年度外科患者統計表

	外 來	入 院	新 患	手 術
一 月	一二九	一一九	一三八	二一
二 月	一二四六	九七八	一六二	一八
三 月	一四九九	一〇九七	一六四	一五
四 月	一四九六	一一二	一五二	二五
五 月	一六〇〇	一〇六八	一五八	一六
六 月	一二六二	八三四	一四二	一九
七 月	一二二七	一〇一七	一三七	二四
八 月	一二四九	八〇一	一五七	二一
九 月	一〇二	六六九	一二〇	二五
十 月	九〇六	六三〇	一〇七	一五
十一 月	八七八	五五一	一〇六	一六
十二 月	九四六	四八〇	一一〇	一一

大正三年度耳鼻咽喉科患者統計表

	外 來	入 院	新 患	外來平均	新患平均
一 月	六五九	三二	一二七	二二	四
二 月	七〇一	三四	一〇一	二三	三
三 月	九三〇	二一	一一六	三三	三
四 月	八六一	一三一	一〇八	二八	三
五 月	六五九	一七〇	一二七	二二	四
六 月	七〇一	二二六	一〇一	二三	三
七 月	七七八	一〇九	九一	二五	三
八 月	九一四	四一	一二二	三〇	四
九 月	六八五	三〇	九六	二二	三

十月	六二七	四四	八三	二一	二
十一月	六四六	四七	九〇	二一	三
十二月	六六二	五九	九六	二二	三

大正四年一月廿四日

●和田源五郎氏通信

(大正三年卒業) 大原病院。十全會宛

(前畧) 拜啓扱て金澤を去つて二ヶ月と相成り候が別に新聞寄談も無之所變れば品變るの例へにて大に風俗の異なる点も見面白く感じ申候當地は金澤よりは多少寒き強く去る八日積雪七寸餘之れ有り候が天候は極めて良好にて降雨の少きに驚き入り候小生勤務の病院は私立の事にて休日もなく且つ小生病院に起臥致し居る事にて福島市の見聞に就いて全く暗く之れ有り候が只見聞の二三を御報知致し度く候當市は人口三万三千にて明治四十一年に市政をひかれたる新市街にて候當市は阿武隈川の沿岸に在りて中央山脈と阿武隈山脈の中間の一小平原に位する地にて候見ゆるものは山のみにて候本市は生絲の市場にて候別に特産物とてなく只生糸の取引盛んにて候市街の建築物は本通りは中々に立派にて候然し一般に屋敷狭く金澤に見ゆる様な大なる庭園を控へ居る家を見る事が出来ません生糸の市場にて候故へ流行は中々早く衣服等は東京風にて候某日當縣物産陳列館參觀致し候が金澤の物産陳列館を見た眼にては見るに足らない、圖書館は甚だ劣つて居ます、縣會を傍聴に行きましたが中々盛んにて活氣之れ有り候當縣は政治思想の發達致し居る處にて候當市に四新聞之れあり候が見るに足らぬものみにて候何れも金澤の毎夕新聞の如くにて候當地は降雨少く且つ風烈しきを以て空氣は甚だ乾燥致し居り候空氣乾燥のため咽喉耳鼻の患者多く見受け申候且つ結核患者の多きに驚き入り候本縣衛生課の調査に依る空

氣乾燥且つ風烈しきを以て結核菌離散甚しきに依るならんとの説にて候當地には三郡共立福島病院の外に私立病院四院有之候私の眼にては醫術は確に金澤より劣つて居るかの如くに見受け申候當市の病院を始め各醫院は新藥を餘り使はぬ様です之は當市内第一流の藥種商の語にて候藥局の如きも完全なるものは三郡共立病院のみならん之れとても餘り感心はせぬ衣類の如きはかなり流行を追ひ居り候が一般に質朴にて候小生勤務病院へ投藥瓶としてビール瓶サイタ瓶を持參して来るに驚き候之は投藥瓶の代價を堪忍するのにて候、當縣は數年來凶作續いた影響が移民甚だ盛んにて候南米のブラジル・ペルー・南洋・フィリッピン等にて候當病院は移民希望者は体格検査施行しますから此頃は壯年者はかなり來ます、從つて此頃は眼科は多忙一般に當地の人は業務に根氣強く御座候一般に義理強く候然し新聞紙上に見るに中々に殺ばつの風あり人を殺すに甚だ慘酷な殺し様をする、小生の見聞は之れ位にて筆を止め次に小生勤務の病院の狀況を此報知申上候本院は明治三十四年の創立にし目下醫師七名(醫學士一名、醫專出身四名、開業二名)、藥劑師一名、助手三名、調劑生四名、看護婦十二名、事務員一名と云ふ有様にて候本院目下の入院患者二十二名外來平均百七十位にて候耳鼻科は醫學士は部長にて最も繁昌致し居り候耳鼻科は患者は平均七十以上にて候耳鼻科は本院の花形にて當地方にて最も評判良きと聞き居り候醫學士は院長の子息にて候

本院の特徴は多々之れ有り候が就中特筆すべきは醫師藥劑師看護婦の養成にて候本院には養成された醫師は四五名ありと聞く今日では醫術開業試験もなくなるから藥劑師の養成にて候調劑生四名とも藥劑師たらんとの希望にて候小生は目下毎夜、化學等を教へ居り候院長は中々の手腕家にて候度量の大なる人にて候人物の養成が甚だ好きな様に見ゆる、中學通學の生徒三名之れ有り候之等は全く他人の子供にて候が全部學費を給するのであります、一年中一日も之等の生徒は實家へ行かれぬ規定にて候その他高等學

雜報

校へ通學させてある人もある、看護學校へ通學させてある生徒二名有之候
看護婦學校の修業年限は一年にて候卒業後は三ヶ年さか本院勤務の義務之
れ有り候看護婦學校卒業後看護婦試験に及第してやつこ月給食費給與にて
貳圓五拾錢にて本院の調劑生看護婦等の全部は病院に宿泊、醫師二名宿泊
僕も宿泊醫師藥劑師は客扱にて候が助手以下看護婦の如きは全く家來扱に
て候看護婦調劑生の全部は宿泊致し居る事にて小使は必要もない様で各自
に分擴させて毎朝掃除させるのである、誠に經濟的に經營されある、調劑
生の如きは一ヶ月給料五拾錢乃至壹圓にて候然し理髮料衣服等は給さる外
に書籍も與へられる様です。

福岡市大原病院内 和田源五郎

●村山良平氏通信

(大正三年卒業。在郷里)

謹啓時下嚴寒の砌先生には益々御勇健に渡らせられ候段慶賀の至りに御座
候降りて不肖も餘光を拜し無異消光罷有り候間右御放念下され度候陳者頃
者一不肖の爲に慰勞會迄も開催せられ加之紀念品の數々を賜はり御厚誼の
程深謝仕候復も引延し寫眞御送呈に預り一家の面目を挙げ御禮の辞に苦し
み申し候本日茲に書狀を以て敬意の微を表し奉り候扱て其の後嚴父に侍側
定省致し幸に日に／＼此方に趣き一同悦び居り候特に小生は歸省看病の甲
斐ありしを深く喜ぶものに御座候目下自宅に開業中に候へ共來春にも相な
れば父の許を得て近郷岡崎病院に通勤研究致し度く御座候先は御禮かたが
た近況一封呈上仕り候敬具

十二月十五日

愛知縣碧海郡六ツ美村大字中島六

村山良平

●村山良平氏表彰會之記

光輝に充てる天長の空、秋風に薫る醫王の峯も吾等の企圖をめでたりける
大正の三年十月三十有一日、吾十全會雜誌部は吾が圖書部の整理と發展に
全力を注ぎ併せて吾部に藥品標本部を創立するに功勞多くして新卒業生た
る村山氏のために表彰に於て送別の會を擧げたり。

當日午前九時半大講堂に參せる學生は百に垂さし別に高安校長、松原部長、
川島委員の御出席あり。

開會の辭について在校生及同級生總代の祝辭あり、兩博士及委員各位亦祝
言を陳べられ終るや紀念品(別記)の贈呈あり次て急嚴の如き拍手裡に主賓
村山氏の懇なる謝辭あり。やがて川島氏送別漢詩の扇を錢せられ更に主賓
の謝辭ありて式を終へぬ。

引續きて茶話會に移り村山君の圖書館論を述べて後輩吾人等に望まると所
あり、越澤、桐田兩氏の琵琶によりて座興を興へらるゝ所ありて滿々たる
和氣に充てる會も萬歳三唱裡に閉ぢらるゝや正に十有二時半。

吾人は茲に滿校の學生諸兄及新卒業生諸兄がかくも盛大なる御賛同と御寄
金とを賜はりたるを鳴謝し併せて兩博士及川島委員の多大なる御接導を給
はり以て吾人の目的を貫徹せしめられたるを深く感謝し敬意を表する所な
り。

更に醜て考ふれば村山君其人の人格と功勞との反影に外ならざらむや、
因に本會よりの紀念品及會計等次の如し、

九谷焼花瓶壹個 寫眞壹面 (目錄付) 以上贈呈
寫眞額面壹個 陳列書棚 一 紀念として圖書室に残す

右會計報告

收入合計貳拾九圓參拾五錢五厘

金拾參圓

金四圓貳拾錢

金四圓參拾錢五厘

金貳圓八拾錢

金五圓五錢

支出合計貳拾七圓九拾錢

金九圓

金四圓

金參圓

金四拾錢

金拾壹圓五拾錢

殘金壹圓四拾五錢五厘

右合計に表示する所に依れば贈呈紀念品と留置紀念品との間に軒輊あるは初企劃せる豫算に比して會後多大なる御寄金ありしために依る也吾人は最後に村山君より我圖書室へ掛時計を送られたるを謝すと共に諸兄に報して欄筆す。

(中成生)

●射初式

十全會弓術部には二月十一日射初式を舉行したり集ひ来る者四十有餘人時は到りて式は始まりぬ日頃鍛へし腕前をば今日が晴れの場に見せんものと悠々進み出づる勇士が力こめたる弦をヤアの聲もろもろにきり放てば滿堂

爲めに振ふかき疑はれたり願は來りて八島師範の出演ありて式は終りぬ吾弓術部には昨年十二月より今年にかけて三十日間の寒稽古を行ひたるに多數の出席者を得たるは吾部の爲め喜ぶべき所なり蓋し寒稽古は今年を以て嚆矢とす。

式後福士部長が響應になれる鏡開の催ありそれより式場にて一同紀念の撮影をなして散じ去りたるは午後四時なりき此日射初出演者次の如し。

(文責 醫一、登谷)

●圖書月報 (其十二)

醫四堀義治

寄贈圖書並に芳名左の如し。

下平氏診斷學 第一卷

下平氏外科各論 第四卷

近世日本人眼底圖譜

石川氏人體解剖學 第四卷

食物及營養論 二部

Dr. Schölp. Atlas der Blutkrankheiten.

Bleil. Innere Secretion I. & II. Band.

購入書籍左の如し。

Bollinger, Pathologische Anatomie I. & II. Band.

Schiffner, Gynaekologie.

Morcek, Jesioneck, Hautkrankheiten.

Morcek, Syphilis.

Soltan, Specielle Chirurgie. I. & II. Band.

Gurwitsch, Embryologie.

醫學博士 下平教授

醫學博士 下平教授

醫學博士 高安教授

石川喜直殿

醫學博士 須藤教授

故今村文緒氏紀念圖書

醫學博士 加藤寛殿

Necker-Trumpp, Kinderheilkunde.

Leumann-Neumann, Bakteriologie I. & II. Band.

Ranber, Lehrbuch der Anatomie. I. II. & III. Band.

エールリツヒ氏化學的療法

小池氏衛生新篇上卷及下卷

森氏病理組織寫真圖譜

三輪氏外科叢書の内

一 創傷療法

二 局所癰醉

三 腹膜炎

四 肛圍炎及痔瘻

五 淋巴腺結核

自大正三年九月至大正四年一月末閱覽總員二千二百三十八人

内 譯

九月 十月 十一月 十二月 正月

特別員 三 七 四 五 六

受驗生 一〇 一五 〇 〇 〇

醫四 一八二 二二二 一六〇 九七 一〇〇

醫三 一八一 二三八 二〇三 一五八 一〇三

醫二 四八 六四 六二 二五 一五

醫一 三二 九八 一二 七四 二三

計 四五六 六三四 六三五 三五九 二四七

※ ※ ※ ※ ※

※ ※ ※ ※ ※

人事

●塚本政治氏(四二) 先般渡歐「ドクトル」を得て歸朝せられたる氏は今

同高岡市利屋町にて昨二月十一日の紀元節の佳節を卜し開業せられ小兒

科及内科患者の診療に従事せらる。

●馬詰定衛氏(四三) 昨大正三年三月迄金澤病院外科二部耳鼻咽喉科に

醫員として勤務後徳島縣の自宅に於て嚴君を助け醫業に従事申なりし氏

は去る二月二十日金澤に來り病院各科を見學し四月の學會參列の上歸郷

せらるゝ豫定なりと。

轉 居

朝鮮光州守備隊醫務室

神奈川縣三浦郡西浦村字社谷

滿洲大石橋衛戍病院

秋田縣秋田衛戍病院

臺灣臺南病院耳鼻喉科

滿洲奉天醫院外科

和歌山縣西牟婁郡有田村

福井市松ヶ枝町一一

石川縣金澤病院外科一部

石川縣石川郡二塚村字古保。北川醫院内

長野縣南佐久郡切原村

藤 波 謙

武 原 三 郎

西 村 貞 俊 (四二)

春 田 久 太 郎 (三六)

島 田 靜 男 (四四)

矢 吹 清 (四三)

吉 田 文 平

宇 賀 治 元 造

藤 戶 謙 治 (大三)

林 喜 久 男 (大三)

木 根 淵 清 (大三)

會告

●自大正四年一月廿六日校外特別會員會費納付調査
至全 二月廿四日

金額	期	氏名
一金參圓也	自大正三年度至大正三年度分	波々伯部重隆殿
一金壹圓也	自大正三年度至大正三年度分	小西俊三殿
一金參圓也	自大正三年度至大正三年度分	藤戶謙治殿
一金壹圓也	自大正三年度至大正三年度分	室田茂人殿
一金壹圓也	自大正三年度至大正三年度分	木根淵清殿
一金參圓也	自大正三年度至大正三年度分	林喜久男殿
一金壹圓也	自大正三年度至大正三年度分	大井良八郎殿
一金參圓也	自大正三年度至大正三年度分	小西孝慈殿
一金壹圓也	自大正三年度至大正三年度分	江守武殿

●創立二十五年記念館寄附金第七回報告

(二月二十四日迄ノ分)印ノモノハ現金領收濟ノ分)

金額	氏名	金額	氏名
一金貳圓也	中西吉郎殿	一金參圓也	井上鉄吉殿
一金五圓也	田村實殿	一金五圓也	○川村二郎殿
一金五圓也	○村松純吉殿	一金拾圓也	松川甫恭殿

一金參圓也	竹園圓隆殿	一金五圓也	津田博明殿
一金五圓也	竹村茂三殿	一金七圓也	石橋四郎殿
一金五圓也	小幡一志殿	一金拾圓也	吉池省吾殿
一金拾圓也	八田智証殿	一金五圓也	瓜生保之殿
一金參圓也	佐藤武殿	一金參圓也	山脇泰治殿
一金拾圓也	村上庄太殿	一金五圓也	川村賢太郎殿
一金五圓也	○屋宮祖德次郎殿	一金參圓也	○萩野茂次郎殿
一金拾圓也	牛塚榮太郎殿	一金參圓也	○山崎太一殿
一金參圓也	尾崎平吉殿	一金參圓也	田島耕平殿
一金五圓也	石川精一殿	一金五圓也	○河村宗作殿
一金五圓也	○吉崎郡太郎殿	一金五圓也	○上野貞吉殿
一金五圓也	○建入久治郎殿	一金五圓也	○丸山六郎殿
一金五圓也	○越野義三郎殿	一金五圓也	○石川玄知殿
一金四圓也	○布村祥殿	一金參圓也	○尾崎平吉殿
一金參圓也	○大井良八郎殿	一金參圓也	○若槻寛隆殿
一金五圓也	○吉田圓磨殿	一金五圓也	○箱保二殿
一金五圓也	○内藤三太郎殿	一金參圓也	○山内順治殿
一金五圓也	○江守武殿	一金參圓也	○淺井泰殿
一金參圓也	○宮城篤珍殿	一金參圓也	○三上俊治殿
一金參圓也	○小林榮太郎殿		

累計金貳千六百九拾八圓五拾錢也

▲第六回申込報告後現金領收ノ分

一金五圓也	藤本純吉殿	一金參圓也	堂坂友作殿
一金參圓也	清水亮殿		